

能登町 橋梁長寿命化修繕計画

令和3年11月

能登町 建設水道課

1. 橋梁長寿命化修繕計画の目的

(1) 橋梁長寿命化修繕計画策定の背景

能登町が管理する橋梁は現在303橋（橋長2m以上の全橋）ある。建設年次のわかる橋梁のうち、既に建設後50年を経過する高齢化橋梁は26%ある。20年後には54%と過半数を超え、急速に高齢化橋梁が増加することとなる。

このような背景から、今後増大が見込まれる橋梁の修繕・架替えに要する経費に対し、これらの橋梁の計画的かつ効率的な維持管理への早期移行が課題となっている。

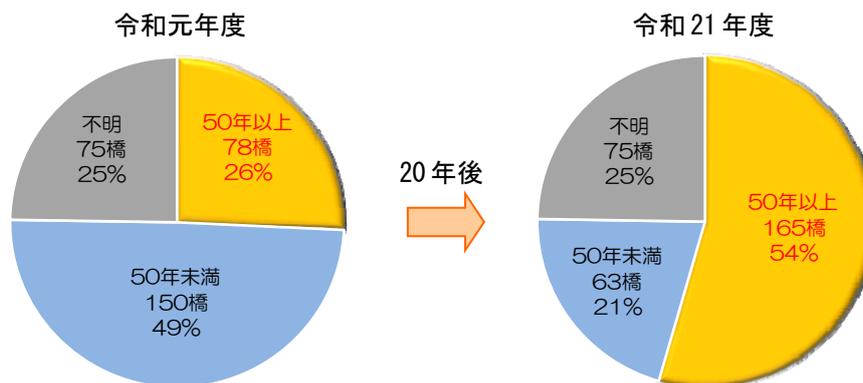


図-1 建設後 50 年を経過する高齢化橋梁の割合

(2) 橋梁長寿命化修繕計画策定の目的

能登町では、従来 of 事後保全的な管理から予防保全的な管理への転換を行い、計画的かつ効率的な道路ネットワークの安全性・信頼性の確保とともに、維持管理コストの縮減及び必要予算の平準化を図ることとする。

2. 橋梁長寿命化修繕計画の対象橋梁

	町道橋		合計
	15m以上	2m以上15m未満	
能登町全管理橋梁数	66	237	303
うち計画策定の対象橋梁数	66	237	303
H21年度 計画策定橋梁数	65	231	296

3. 健全度の把握及び日常的な維持管理に関する基本的な方針

(1) 健全度の把握の基本的な方針

道路法の一部改正(H25.9.3施行)及び道路法施行規則の一部改正(H26.7.1)に伴い、橋梁等は5年に1回の頻度での近接目視による点検が規定された。これを踏まえたうえで健全度の把握については、橋梁形式、能登町の損傷傾向及び環境条件を十分考慮するとともに、「道路橋定期点検要領 平成31年2月 国土交通省道路局」及び「能登町橋梁維持管理マニュアル 令和3年6月 能登町建設水道課」に基づき定期点検を実施し、国土交通省国土技術政策総合研究所による「道路橋に関する基礎データ収集要領(案)」に基づき橋梁の損傷を早期に把握する。

(2) 日常的な維持管理に関する基本的な方針

橋梁を良好な状態に保つため、日常的な維持管理としてパトロールや清掃などの実施を徹底する。

(3) 計画、実行、評価、改善のプロセスによる維持管理の実施

橋梁の定期点検を計画的に実施し、その点検結果を蓄積する。また、蓄積された点検結果は、補修対策の実施や次回点検を実施する際に継続して活用していく。

4. 対象橋梁の長寿命化及び修繕・架替えに係る費用の縮減に関する基本的な方針

健全度の把握および日常的な維持管理に関する基本的な方針とともに、予防保全的な修繕等の実施を徹底することにより、修繕・架替えにかかわる費用の大規模化および高コスト化を回避し、コストの縮減を図る。

また、橋長5m未満の小規模橋梁は、構造が簡易で架替えや仮橋の設置が容易であるため、職員による日常パトロールや定期点検により当面の安全性を確認し、架替えを前提とした維持管理を行いコストの縮減を図る。

5. 新技術の活用方針と短期的な数値目標

修繕や点検等を実施する全ての橋梁について、新技術情報システム(NETIS)や点検支援性能カタログ(案)などを参考に、新技術等の活用を検討し、事業の効率化やコスト縮減を図る。

令和4年度から8年度までの303橋の定期点検において、橋長5m未満の小規模橋梁100橋程度を対象にAIによる診断支援システム等を活用し、約8百万円のコスト縮減を図る。

6. 費用の縮減に関する具体的な方針と短期的な数値目標

社会情勢や施設の利用状況等の変化に応じた適正な配置のための橋梁の集約化・撤去、機能縮小などの検討をおこない費用の縮減を図る。

令和8年度までに、迂回可能な橋梁や交通需要の低い橋梁など3橋程度について地元の意見を踏まえながら、集約・撤去、機能縮小などの検討を行う。

7. 橋梁長寿命化修繕計画による効果

橋梁長寿命化修繕計画を策定することにより以下の効果が期待できる。

- ① 修繕計画を策定した303橋の修繕及び架替えに要する費用については、今後50年間で約54億円→約24億円となり、約30億円（約55%）の維持管理コストの縮減が見込める。
- ② ライフサイクルコストを考慮した中長期的な視点から対策の優先順位を考慮することにより、限られた予算に合った事業費の平準化が図られる。

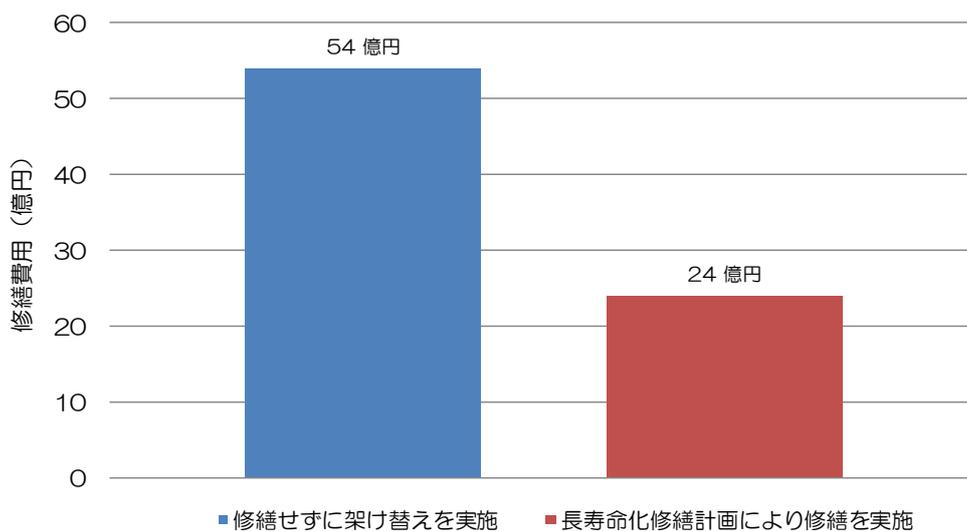


図-2 今後50年の修繕費用の対比

9. 計画策定担当部署及び意見聴取した学識経験者等の専門的な知識を有する者

1) 計画策定担当部署

能登町 建設水道課 TEL 0768-62-8523

2) 意見聴取した学識経験者等の専門的な知識を有する者

石川工業高等専門学校 環境都市工学科 津田 誠 教授